

第61回BHELP標準コース開催報告

BHELPとは



災害現場で必要な知識・連携・行動を学ぶ災害教育プログラム



2025年
7月12日
(土)

プログラム内容

- 災害支援の基本
- CSCAを用いた支援行動
- 避難所の役割と評価
- トリアージ演習とレイアウト改善



参加者



計 24名

- ・医師5名 ・看護師6名
- ・リハ職種 9名
- ・行政・消防等 4名



災害支援の観点が
広がった！！

参加者の声

(すぐに現場で活かせる内容だった) (演習での話し合いが学びになった)

今後も地域の災害対応力の
強化に活かしていきます！



第 61 回 BHELP 標準コース(Web)開催報告

主催：大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会

開催日：2025 年 7 月 12 日(土)9:00～16:30

開催形式：オンライン(Zoom)

BHELP とは

BHELP(Basic Health Emergency Life Support for Public)は、被災地での医療・福祉支援活動を効果的かつ効率的に行うために必要な「知識」「共通言語」「行動原則」を学ぶ日本災害医学会認定の教育プログラムです。医療・福祉・行政など職種横断的な連携を促し、「災害時に現場で活躍できる人材」を育成することを目的としています。

プログラム内容

本コースは、「CSCAHHH」フレームワークを軸に構成されました。

- <講義>
 - 災害医療体制と支援の原則
 - 避難所・福祉避難所の役割と体制
 - 健康課題の予防と支援方法
 - 避難所アセスメントシートの活用
 - 他職種・他機関との連携のポイント
- <演習>
 - トリアージとその実践
 - CSCA を意識した支援行動
 - アセスメントを用いた避難所評価
 - レイアウト改善と動線設計

参加者の構成

受講者数：24 名(うち初参加多数)

スタッフ：22 名(講師・インストラクター含む)

職種	人数
医師	5名
看護師	6名
理学療法士	4名
作業療法士	4名
言語聴覚士	1名
精神保健福祉士	1名
消防職員	1名
病院事務職	1名
医学部学生	1名

📝 参加者の声(一部抜粋)

- ・実際の災害対応を想定した実践的な内容で、自施設でもすぐに活かせそうです
- ・演習でチームの意見をすり合わせながら考えるプロセスが学びになった
- ・初めての受講だったが、被災者の生活や健康課題への視点が広がった

📷 開催の様子(記念撮影より)

- ・各演習セッションはオンラインでのブレイクアウトルームを活用し、活発な意見交換が行われました。
- ・受講者・スタッフともに終始真剣な表情と熱意に満ちた雰囲気でした。



🌟 今後に向けて

本研修で得られた知識や視点を、各現場での備え・実践へと活かしていただければ幸いです。今後も継続的な研修機会を通じて、地域の災害対応力を高めてまいります。